

## ITEM 2019 雑感

国立大学法人北海道大学病院 笹木 工

今年の ITEM のキーワードは、やはりと言うべきか AI (Artificial Intelligence) と線量情報管理ソフトであったように思われる。キヤノンメディカルシステムズ が CT の画像再構成, "AiCE" で採用され, 少しは身近に感じられるようになったのではなかろうか。画像再構成に用いる以外に, 比較読影や病変部の検出など様々な商品が展示されていた。CT の画像再構成に AI を用いる場合には「良い」教師画像, とてもキレイ? なお手本が必要となる。そのお手本に近づけるようにするためにはどうすれば良いかという方法を搭載しているのが AiCE である。お手本がよくないと結果も相応であると同時に, お手本を超えられないと言う問題も発生する。昨年来より拝見させていただいている AiCE の画像はその心配はなさそうであるが, 実際に使用してから結論を出すことにしたい。

同様によく見かけたものは線量情報管理ソフトである。数年前から展示していたメーカーもあるが, 今年は特に目立ったように思えた。線量情報を管理するためには撮影装置から情報を取得しなければならない。その情報は DICOM 規格の RDSR (Radiation Dose Structured Report) と言われるもので, 出力できるかどうかは装置が対応しているかどうかによる。幸いにして当院に設置している 3 台の診断用 CT 装置は 1 クリックだけで OK であった。実を言うと数年前に線量情報管理を先んじて行ってみようと考えた時期があった。全モダリティは無理なので CT のみで行い, 患者単位の線量管理をしようとしたのである。RDSR を取得し, それを閲覧できるフリーのソフトを入手し, この PC (MacBook Air) で情報を表示したことがあった。しかし, あまりにも膨大なテキストデータとそれをデータベース化することができず, 個人で線量管理をすることを断念した思いが会場内で蘇った。

装置メーカー, HIS/RIS メーカー, インジェクターメーカー, 今では様々なメーカーの製品を選択することができる。このような背景には昨年の診療報酬改定によるところが大きいと思われる。この流れはさらに加速し, 全ての施設で

行うような（厚生労働省の）方針なのではなかろうか。数多く検査することよりきちんと管理しているものに点数をあげます…ということであろうか？ 仮にその加算が取れなくても線量情報管理は行った方が良いと思われるので準備だけはしておいた方が得策である。

履きなれない革靴でできた靴擦れと戦いながらすぐに喫煙所に向かう自分が ITEM 会場で憶えた雑感である。